

世田谷区政・検証

大型開発 「イメージだけ」政治の行き詰まり
保坂区長の「4大見直し公約」はどうなった？

東京都の再開発方針に今年1月 全面降伏していた保坂区長



■昨年10月、東京都から「東京都市計画 都市再開発の方針の変更について」という文書（計画図付き）の照会（これでいいかの確認）がありました■簡単に言えば東京の中で、この地域を再開発して進めますよ（進行中も含む）という基本中の基本の方針。世田谷区でもこの方針

「東京都市計画・都市再開発の方針」で促進地区に指定された世田谷区内の34地区

| |
|---------------|
| 北沢三・四丁目地区 |
| 太子堂・三宿地区 |
| 三軒茶屋駅周辺地区 |
| 祖師谷大蔵駅周辺地区 |
| 喜多見駅周辺地区 |
| 上祖師谷四丁目地区 |
| 環七沿道地区 |
| 二子玉川東地区 |
| 奥沢二・五丁目地区 |
| 世田谷区役所周辺地区 |
| 千歳烏山駅周辺地区 |
| 用賀駅周辺地区 |
| 明大前駅北側地区 |
| 上馬・野沢地区 |
| 北沢五丁目・大原一丁目地区 |
| 目黒通り沿道地区 |
| 砧一・三丁目地区 |
| 太子堂四丁目地区 |
| 経堂駅周辺地区 |
| 玉川三丁目地区 |
| 砧三・五丁目地区 |
| 成城学園前駅周辺地区 |
| 千歳船橋駅周辺地区 |
| 砧五丁目地区 |
| 芦花公園駅南口地区 |
| 環八沿道地区 |
| 桜上水三・四丁目地区 |
| 成城八丁目地区 |
| 下北沢駅周辺地区 |
| 北烏山三丁目地区 |
| 大蔵地区 |
| 北烏山二丁目北部地区 |
| 世田谷西部地域北部地区 |
| 世田谷西部地域南部地区 |

こそが大型開発のベースになるものです■これは5年ごとに見直しが図られるもので、その意味では「大型開発からの転換」を公約に掲げた保坂区長としては是非とも自分なりのビジョンを示し、東京都の方針に論戦を挑んで欲しいところでした■例えば「下北沢駅周辺地区」では地区の再開発・整備の目標として「都市計画道路等の公共施設の整備により、商環境や住環境など、広域生活拠点としての市街地の整備・改善を促進する」とあります■さらには用途、密度に関する基本方針では「都市計画道路等を整備しつつ、沿道で更新される商業空間と既存の商業空間とを連携させ、特色ある商店街の集合体としての街の魅力を一層引き出すとともに、周辺住宅地と調和した商業地の合理的な土地利用を図る」とあります■こういったことが34地区ごとに細かく書かれているのです■これらに対し保坂区長は3ヶ月後の今年1月にどのように回答したでしょうか。以下が回答。

東京都市計画都市再開発の方針の変更について（回答）

平成26年10月10日付け、26都市整企第208号で照会のありました標記の件について、異議はありません。

異議はありません。電報？ツイッター並みの52文字の保坂区長の回答文！

■実際には「異議はありません。」の9字です。結局、保坂区長が選挙戦で掲げた「大型開発からの転換」という公約は守られることなく、再開発時の区の補助金を減らしたり、遅らせることくらいが関の山だったのです。

公約ボロボロの区長は投げやり勢？

■「大型開発からの転換」などと簡単に言ってしまった保坂区長。しかしその後4年で世田谷区の人口は増加しました■何が起きているのでしょうか。それは世田谷区のみどりが減り、住宅化が進んでいるということです■特に区の西部地域が顕著です。上表の最後の2つ、世田谷西部地域は南北にわか

れていますが今回新たに設けられた地区です■新年の挨拶で保坂区長は人口は90万人を突破するかもしれないと嬉々として喋っていましたが（現在87万4千人、県並みの人口が自慢らしい）世田谷区は住宅都市です■居住性が低下しては意味がありません。本当に考えなければならぬ時に「異議はありません」ですから。

自民・公明・生ネ・社民・共産・民主の賛成で 昨年4月の消費増税8%は 公務員給与アップのためだった 値上げ条例案可決 ということになっちゃいますよ！

■昨年4月の消費増税で日本の経済は失速しました。やはり5%から8%の増税は予想以上の「割高感」がありました■さらに円安政策で生活用品等の値上げ

| | | |
|------|--------|-------|
| 区長 | 2,167万 | 49万UP |
| 副区長 | 1,739万 | 40万UP |
| 教育長 | 1,476万 | 34万UP |
| 部長級 | 1,207万 | 21万UP |
| 課長級 | 1,005万 | 17万UP |
| 係長級 | 774万 | 13万UP |
| 主任主事 | 667万 | 11万UP |

で家庭では生活防衛にまわらずにはいられません■そこでまた消費が抑制するという悪循環が発生しています。アベノミクスなんてほんの一握りではありません。にもかかわらず、昨年末の総選挙の直前の区議会で保坂区長が「世田谷区の公務員給与の値上げ案」を提案。しかも自分の給与もお手盛りで提案。さすが元社会党！公務員に甘いプレゼントなのでしょうか、右上表のような年収になります■この条例案には自民から共産までが賛成し、交渉会派は私たち「無所属・世田谷行革110番」だけが反対する結果に■保育園の待機児童をワーストワンにしてしまった保坂区長、必要もない個人的な関心で強行されたオランダ海外視察680万円の予算及び議会軽視の姿勢、またこれまでも報じてきました「がやがや館」の赤字を放置している無責任さを考えても、どうしてこんな区長の給与を上げなくてはならないのか、民間ではあり得ないことです。

これだけで年間6億円の出費増 消費増税って福祉に充てるんじゃないの

■一般職員である主任主事クラスでも月あたり1万円近い額ですが、今回の給与値上げに要する税金は6億円です。お金に色はついていませんから消費増税で入ってきた分（実際入ってくるのは後年度ですが）公務員給与を上げているように見えます■毎年6億円の出費。消費増税は福祉に使われるのでは、なかったのでしょうか？■これだけの財源があれば世田谷区の福祉を前に進めることも可能です。消費税上げて最初に公務員のフトコロを温めるなんて・・・どうにかならんのか。

あとがき

●今期もあと数ヶ月で区長及び区議の任期が終わります。保坂区政の4年とは何だったのか？今回は自分勝手な公費によるオランダ旅行を取り上げ、公私混同ぶりをとりあげました●また公約に掲げた大型開発については関心がないようで、役人に丸投げ●保坂区長は「考えてみます」だけで「決めること」ができません。選挙で責任をとられることを恐れているのでしょうか●年間80回を超える講演会やシンポジウム出席も問題です。区長としての十分な職責が果たせているのでしょうか●また講演会等で同席した学者・先生から得たネタをあっちこちで使い回し、区民からすれば何でも知っている“専門家”のように映るかもしれませんが、それは“受け売り”に過ぎません。著書（表面参照）を読めばすぐにわかります●しかも

選挙を意識しているのか、区内の権力者にことごとく媚びて媚びて、区政をきわどいものにしてやっています。一つは、多額の補助金（5億6千万円）を出している商店街のトップと一緒に視察をしたりしています（今年度は1室7万円の旅館を使用・これも公費支出）●また世田谷ナンバーの一件も大場代官屋敷のトップの意向を再優先で汲んだことは間違い無いでしょう●補助金を出す側と受け取る側と一緒に旅行するなど区政が歪んで見えないでしょうか。もちろんそんなことをする区長は保坂区長が初めてです●今回もお伝えしたいことが盛り沢山のため字が小さくなりました。すみません。

（大庭正明）



4月26日は世田谷区議会議員選挙です。